

平成30年度第1回津島市地域公共交通会議 議事録

1 開催日時

平成30年5月18日（金） 午後2時から午後3時19分まで

2 開催場所

津島市役所 3階 市長公室

3 出席者

別紙「平成30年度第1回津島市地域公共交通会議出席者名簿」のとおり

4 議事

- (1) 平成29年度ふれあいバスの運行実績報告について（報告）
- (2) ふれあいバス市民アンケートの実施について（協議）
- (3) 名鉄バス（市内運行路線）の利用実績について（報告）

5 会議資料

- 資料1 津島市巡回バス「ふれあいバス」ルート図（平成30年4月1日）
- 資料2 津島市巡回バスの利用状況と運行経費について
- 資料3 ふれあいバスに関するアンケートの実施について
- 資料4 ふれあいバスに関するアンケート修正点
- 資料5 ふれあいバス（津島市巡回バス）に関するアンケート
- 資料6 名鉄バス一般路線月別利用実績

6 会長挨拶

【会長】

本市では、市民の移動支援のために平成13年10月に津島市巡回バスの試行運行を開始し、その後、運行経路等の見直しを重ね、平成26年7月の改正から現在の運行に至っている。

先の改正から7月で4年が経過することになるが、今後、より効率的・効果的な運行が行えるように利用状況等を分析し、また、市民要望の整理や市民ニーズを確認するためのアンケートの実施等を行い、現行の運行に関する評価と今後の運行について検討して参りたいと考えている。

本日は、平成29年度のふれあいバスの利用実績をご報告申し上げるとともに、2月にこの会議でご指摘いただいた事項を修正した市民アンケートについて、皆様から再度ご意見を賜りたい。市民アンケートについては、本日の会議結果をもとに修正し、7月に実施することを考えているのでよろしく願います。また、名鉄バス株式会社様より、市内を運行する名鉄バス一般路線の利用実績をご報告いただく予定をしている。

議題のほかにも地域公共交通全般に関して活発な意見交換の場にもさせていただきたいので、よろしくお願い申し上げます。

7 議事要旨

(1) 巡回バスの運行実績報告について（報告）

【事務局】

《資料1及び資料2を説明》

（資料に記載がない事項として、以下を説明）

- ・ Bコースについて、乗り継ぎ券の利用数を調べたところ津島駅でBコースに乗り継ぎをして市民病院、ヨシヅヤ本店に行く利用者が減少したことがわかった。
- ・ Dコースについて、1月末でアルテが閉店したこととの関連は、データ数が少ないので確証はないが、アルテ閉店後の2月と3月を併せた降車数は、前年比マイナス56%、67人の減少となり、大きく減った。同様に、Bコース、Cコースでも2月と3月は津島駅東の降車数が前年度から減っている。

【会長】

2月の会議でもご説明したが、3月26日にバス停名称を変更した。時刻表の表紙にシールを貼り修正しており、Aコースの「清林館高校」を高校が愛西市に移転したことに伴い、バス停名称を「本町5丁目」に変更した。また、B、C、Dコースの「アルテ津島店」が閉店したことに伴い、バス停名称を「津島駅東」に変更した。

【構成員】

バス停の場所は同じところか。

【会長】

場所は変わっていない。

【構成員】

利用実績の全体像をみたが、乗客の積み残しはないか。

【事務局】

現状、積み残しはない。

【構成員】

前回にお願いしたとおり、今回は、ルート図に市境を入れていただいた。

ルート図に名古屋鉄道の路線は入っているので何となくはわかるが、その他に市内を運行する名鉄バス路線と市境付近の近隣市町が運行するコミュニティバス路線を入れていただけると良い。

今後、路線を見直していくという話もある中で、市民の方は津島市内だけで動くわけではなく、場合によっては、近隣市町のコミュニティバスに乗り継いだり、名鉄バスに乗る方もいるので、そのようなことを念頭においた路線の議論もできると思う。今後、資料を作っていただく場合は、それらを入れていただければ議論が深まると思うので、よろしくお願いする。

【事務局】

次回からそのように作成したい。

(2) ふれあいバス市民アンケートの実施について（協議）

【事務局】

《資料3から資料5までを説明》

（資料に記載がない事項として、以下を説明）

- ・市広報紙8月号の最終ページに切り取り型のふれあいバスアンケートを記載し、実施する。

【構成員】

アンケート内容について特に異存はないが、このアンケートを実施するに当たっては、一般の人にアンケート調査票を郵送されると思うが、名鉄バスを含めて、意外に皆さんバス停を知らないし、バス停が目の前にあっても、どこに行くのか、どこのバスかも知らない、バスに興味がない人は、全く見ないという方が意外に多くみえる。そういうことを考えると、最初に「あなたは、ふれあいバスを知っていますか。」というところから入らないと後ろの設問に繋がっていかないのではないかと思う。

【会長】

「あなたは、ふれあいバスを知っていますか。」という設問を最初に設けるといいか。

【構成員】

はい。アンケート表紙の最初の市長さんの署名があるところに、津島市はこのようなふれあいバスを運行していると書いてあるので良いと思うが、やはり一番最初は、「あなたは、ふれあいバスを知っていますか。」というところから入った方が良いと感じる。

【構成員】

私の近辺には、運転免許証を返納している方が意外と多い。そういう方からは、例えば市民病院やヨシヅヤ本店に行くとき、誰かに乗せてもらわないと困るという話が多い。つまりは、運転免許証を返納された方は移動するための足がない。そういった方には、巡回バスを利用していただくのが一番良いと思うので、「津島市は巡回バスが通っていますよ。」と説明するが、「ふれあいバスは、市民病院に行っているのか。」と、どこに行けるのか、どこで乗ればよいか、運賃はいくらか、ということ聞かれる。

今おっしゃられたように、もう少し巡回バスが津島市にはこういうふうにあると知ってもらった方が良い。ふれあいバスの時刻表を再度発行していただき、市民一人ひとりの手元に届くようにしていただいた方が良いと思う。

巡回バスについて、我々でわかる範囲は説明するが、そのような方が意外と増えているため、皆さんがバスを利用できるように時刻表やコース表など、わかりやすいものを配布していただくことが一番良いと思っている。

もう1点、運転免許証を返納すると警察署でいただける運転経歴証明書をみせたらバスの料金が半額にならないか。そういう意見もある。

【会長】

運転免許証自主返納促進支援事業の話が事務局から少しあったが、この事業を6月からスタートする。運転免許証を返納すると、運転経歴証明書の交付を受けることができ、これを本市の市民協働課窓口で提示することで、10枚綴りのふれあいバス無料乗車券を交付させていただくものである。また、本日、警察署の方は欠席しているが、前回の会

議の時に警察署の堀田交通課長さんから藤田会長がおっしゃられた周知について協力するという意見をいただいております、免許証が返納された場合には、警察署の交通課でふれあいバスに関するチラシや企業が自主的に行う運転経歴証明書による割引サービス等を一覧にしたチラシなどを窓口でお渡しするとの話をいただいております。今後も市民協働課や警察の方と連携しながらやって行きたいと思っている。この事業については、市広報紙5月号にも掲載をしている。

なお、無料乗車券交付枚数の10枚というのが多いのか、少ないのかは議論があるが、やはり足がなくなったという移動の部分で、ふれあいバスがあるということを知り、利用のきっかけとして最初は無料で乗っていただき、その後は他の皆さんと同様に100円でご利用いただきたいと考えている。

【構成員】

バスを知らない方は論外の話となるが、バスの乗り方を知らないという方が意外と多い。小学生、中学生には乗り方教室をされていることが多いが、高齢者の方に対しては、バスの乗り方を説明する講習会などをされているところは少ない。普段は車に乗っていて、そのままお年寄りになって、免許を返納せざるを得なくなるまで車に乗り続けている方は、バスに乗ったことがない方もみえる。今は、ICカードなどの難しいシステムもあって、そもそもバスに乗るのが怖い、だから車が手放せなくて免許も返納できないというパターンが結構ある。このため、可能であれば津島市にもシニアクラブ等の高齢者の団体があると思うので、そのようなところの旗振りで、バスの乗り方教室みたいなものやっていたら、乗り方がわかれば、多分1、2回乗ればすぐに慣れていただけたらと思うので、抵抗なく乗っていただけるようになると思う。乗ってみて、それなりに使えるということがわかっていただければ、使っていただけるし、使えることがわかれば安心して免許を返していただけるという連鎖が起こるのではないかと思う。すぐには言わないが、一度検討していただく価値があると思うので是非よろしくお願いたしたい。

【会長】

名古屋市営バスだと前から乗り、名鉄バスだと後ろから乗るとか、他にも料金の支払い方も違うことがある。使っている立場の私どもはわかって当然というのがあるが、確かに高齢者の方で車や自転車などをご利用されている方の中には、わかっていない方も多いいということがあるかもしれない。高齢者団体を所管する担当課等とも話をし、老人クラブの方で講習会をやってほしいということであれば、実施を前向きに検討したい。

【構成員】

スケジュールについて、7月末でアンケートを締め切り、10月末までに集計するという理解でよろしいか。

【事務局】

そのとおり。

【構成員】

アンケート期間について、20日間という期間が短く感じる。バスの利用者数を月ごとでみると8月の利用者はトップ3に入るぐらい多いので、もう少し期間を延ばして回答者を増やすことを考えてはどうかと思う。集計の事務量が増え兼ねない部分ではあるが、

可能であればご検討いただきたいと思う。

【事務局】

検討する。

【会長】

アンケートは、本日、ご指摘いただいた内容の「あなたは、ふれあいバスを知っていますか。」という設問を追加して実施したいと思うので、よろしく願います。

アンケート実施後の集計結果については、11月頃に第2回津島市地域公共交通会議の開催を予定しているので、その際に報告させていただくことを考えている。

また、その中でいろいろとご審議いただくことになると思うので、よろしく願います。

(3) 名鉄バス（市内運行路線）の利用実績について（報告）

【構成員】

《資料6について説明》

- ・津島市内を運行する2路線について、長らくダイヤ改正等がなかったが、運転要員の不足があったことなどによりどうしても改正しなければならない運輸状況になってきたため、ご利用に見合ったかたちとなるよう3月に若干減便のダイヤ改正をした。この影響が利用実績に少し出てしまったところである。
- ・資料の輸送人員そのものは、津島、あま、大治、名古屋市内の長大な路線すべての乗車ベースの輸送人員である。実際には、津島地区のお客様はほとんど減っておらず、ご利用に関して前年度とあまり差は出ていない状況である。
- ・資料から名古屋津島線は1日あたり平均6,300、6,400人ぐらい、岩塚線が1日あたり平均1,600人ぐらいの利用というボリュームで、そのうち津島での乗車は、2割ぐらいである。
- ・平日ベースで名古屋津島線は1日210本、岩塚線は1日80本弱の運行をしている。
- ・前年度比約95%となっているのは、名古屋市内で市バスと並行しているところで名鉄バスの本数が減った分、少し市バスへの移行が起こっていると思われるが、4月の全線の輸送人員をみると全般としては、横ばいぐらいであるので、やはりそこだけ弱かったかなという状況である。
- ・津島市内という点では、利用は比較的堅調であり、人の動きの方は良いと考えている。

【会長】

3月にダイヤ改正されて、どの期間か様子を見て、再度ダイヤ改正するという予定はあるか。また、乗車人員数の分析をしてダイヤ改正などの計画的な予定はあるのか。

【構成員】

弊社のダイヤ改正は、3月、4月のJRの改正に合わせるべき地区等もあることから、概ねそれに合わせて行う。それに向けてデータを蓄えていくということである。しかし、今回は、大きく手を入れたので、少し様子を見ようと思っているが、状況が変われば、あるいは、多くのお客さんが戻って見えれば、いろいろと考えないといけないところはある。

【会長】

3月にダイヤ改正で津島から名古屋方面で20分間隔が30分間隔と毎時1本を減らされたというところもあり、資料は全体ですがこの辺の利用実績は把握されているか。

【構成員】

乗車ベースでみると名古屋より遠いところに関しては、時間をちゃんと見ながら乗っていただけるので、あまり大きな影響はない。影響については、名古屋市内の交通局の市バスと一緒にたくさんのバスが来るようなところであり、やはり本数比でご利用を逃してしまうところが出てくる。

【会長】

津島市としては、名鉄バス、名古屋鉄道は市民の足であるので、これ以上減らされると厳しいところがあると思うが、例えば、再度ダイヤ改正があるようならば、タイミングにもよるかと思うが公共交通会議、若しくは、市にお声掛けいただくことはできるか。

【構成員】

ご利用の状況の説明については、機会をいただければ適宜やらせていただく。

【会長】

ダイヤ改正の予定があるという案のようなものをお示しいただくことはできないか。

【構成員】

ダイヤ改正の詳細は、ぎりぎりになってしまうので、お出しするのはなかなか難しいが、それも状況に応じてかと思う。

【構成員】

高校生の総数が減ってきているが、高校生の利用は減ってきているのか。

【構成員】

全線をみても、高校生は年により差があるという感じではある。高校の通学輸送自体は、一般路線ではなく、契約輸送などの形態が多いので、なかなか弊社の輸送が高校生の動きを総じて表すかというところと少し自信がないところである。

【構成員】

大学の方でいうと、2018年問題ということで、これ以降の人口が落ちるということであり、3年前がちょうど高校生が減る年ということで、今年ではなく3年前ぐらいから高校生の総数が減っている影響がみられるのではないか。

【構成員】

高校生よりも今回は大学の方が定員の厳格化みたいなもので少し動きが読めない部分がある。

【構成員】

子どもの数が減ってきており、18歳未満の方は車を運転できないので、バスに頼るところで、バスにとってはいいお客さんであるが、総数が減ってきているので、なかなか乗客数が伸びてこない状況にあると思う。

8 その他事項

【構成員】

今年と去年のうちに代わられた方のために「活発で良い議論ができる会議のために」という冊子が配られている。これは一昨年(2017年)の3月に中部運輸局の方で公共交通会議に参

加していただくにあたって、各委員さんに、どういう立場で、どういう意見を言っていたかというのが公共交通のために良いかということの色々と考え、簡単な冊子にまとめられたものである。今、この場で細かく説明はしないが、持ち帰り、一度ご覧いただきたい。特に市民委員さんは、日ごろのご近所などでの意見で気になったところをお留めおきいただいて、このような場で発言していただくと、より現実に即した公共交通が確立できると思うので、よろしく願います。

9 閉会挨拶

【会長】

地域公共交通の問題というのは本当に難しく、市民の皆さんからもさまざまなご意見をいただいているところである。

ふれあいバスにおいても、厳しい市の財政状況の中、より多くの方にご利用いただけるよう改善していくので、今後ともご指導、ご協力くださるようお願いを申し上げます。

なお、会議中にも申し上げたが、次回の開催は、11月頃を予定している。日程調整を事務局からさせていただくので、よろしく願います。